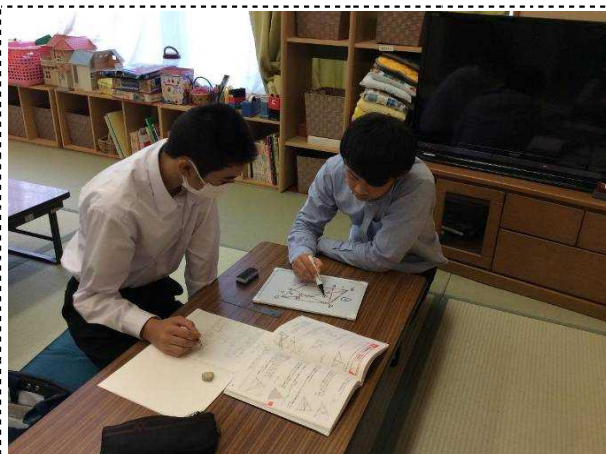


市町名	熱海市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	○
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



地域の大学生による中学生への学習支援

活動名	土曜日学習
実施箇所名	市内5箇所（熱海地区2箇所、多賀地区2箇所、泉地区）
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>地域人材を活用し、土曜日の補充・定着学習や学習方法・学習習慣の支援・援助等を行うことを目的としている。</p> <p>開催方法は、土曜日の9:00～11:00までの2時間、塾などに通っていない児童生徒のうち希望するものに対し、授業でわからなかったところを補充したり、学習相談に応じたりしている。</p> <p>小学生については、5月からの1年間で32回実施。算数や国語について、既習事項の定着を図ること中心とした支援を行っている。中学生については、10月からの半年間で18回実施。高校受験のための力を身につけさせるために、演習問題などに取り組みせながら、個々に応じた助言や指導を行っている。</p> <p>退職教員、大学生、地域で福祉活動を行っている方など、多岐にわたる方々に協力していただいている。</p>
活動の成果	<p>自主的に参加していることもあり、多くの児童生徒が意欲的で、2人から4人に1人の支援員という少人数指導の中で、積極的に質問したり、分からないことを聞いたりしている姿が見られる。個々の子どもの生活や進路に関わることにについて、学校と連携して取り組むことができおり、学習面だけでなく、広く子どもへの支援につながっている。</p>
課題等	<p>コーディネーターの役割が重要で、現在は退職教員をお願いをしているが、今後は、後継者育成のためにも地域から人材を広く見つけていく必要がある。</p>
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<p>コーディネーター5人、支援員16人で、熱海市内の小学校6年生20名と中学3年生27名の学習をサポートしている。</p>

市町名	富士市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	○
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



地区のイベントでスイーツポテトを販売

活動名	淵っ子ファーマーズショップ
実施箇所名	大淵まちづくりセンター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>小学3～6年生が6次産業の体験学習を通じて「農業体験」「食育体験」「職業体験」を経験することで、働くことの大切さや郷土愛を学ぶことを目的に、1年かけて計8回の講座を実施した。</p> <p>児童は地区特産物のサツマイモを育て収穫した後、自らが考案したオリジナルスイーツ（スイーツポテト）に調理して、地区のイベントで販売した。農業体験では、地区の農業従事者と関わることで農業の大変さ・重要さを学んだほか、調理・販売体験では、スイーツの考案や接客方法、利益を出すための販売価格設定などを通して、お金を稼ぐことの大変さや、仕事の達成感を学べる機会とした。</p> <p>6次産業を学んできた成果の発表の場となる商品の販売場所を、地区の文化祭に設定した。児童が学ぶ姿を地域住民に披露することで地域へ学びの還元を図るとともに、児童が地域の一員としての実感を持ち「郷土愛」を育める内容とした。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や調理・販売体験など講座ごとに異なる職業観を身につけることができ、将来の職業選択の幅を広げることができた。 ・学校や学年が異なる児童と一緒に活動することで、仲間同士の「絆」を感じてもらうことができた。 ・成果の発表の場として地区の文化祭で販売したことにより、地元へ学びの還元を図ることができたとともに、児童は自ら生産から販売まで行うという成功体験を得ることができた。
課題等	まちづくりセンター職員は、講座の運営と地区のイベントサポートの双方を行うため、職員の業務が煩雑になる可能性がある。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加児童は、2校区の小学3年生から6年生19人。</p> <p>縦割りの班に分けて1年間活動することで、自分の役割を見つけて活動できるよう工夫した。</p>

市町名	函南町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	○
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



門松づくりに挑戦する子どもたち

活動名	わいわい塾ものづくり教室
実施箇所名	函南町文化センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>町内在住の小学3年生から6年生を対象にもの作りを主とした体験活動を実施している。もの作りを通して、子どもの仲間作り及び子どもたちの自主性や個性を伸ばしていくことを目的としている。また、子どもたちともの作りを教えてくれる地域のボランティア講師との関わりにより、「地域で子どもを育てる」場となるように取り組んでいる。</p> <p>活動は、5月から2月まで年間10回の実施を予定しているもので、毎回の内容に合わせたボランティア講師へ依頼し、季節を楽しむ茶華道教室やお正月の門松作りなどを指導してもらった。</p> <p>毎月開催しているため、作品を季節の行事に合わせたものにし、家庭に持ち帰り家族と楽しめるようにしたり、町の施設を利用したコラボ企画により、自分の住む町を改めて見直すきっかけとなるような内容としている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭または学校以外での子どもたちの安全な居場所づくりをすることができた。 ・子どもの体験活動を通して、地域の方との交流を深めることができた。 ・受講の対象児童が町内全体で暮るため、学区を越えた地域の子どもたち同士の交流する機会を作ることができた。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の内容を子どもたちにとって魅力あるものにするために毎回アイデアを出しあうのに苦労する。また、希望する内容があったとしてもボランティア講師が見つからない場合がある
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフはボランティア団体に所属する8名程度 ・参加した子どもの人数は毎回30名前後

市町名	清水町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	○
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



もしもに備える！防災教室

活動名	土曜チャレンジキッズ教室
実施箇所名	清水町地域交流センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>町内の小学１年生～６年生を対象に、土曜日等（日曜日、祝日、長期休業を含む）を中心とした地域交流センターでの活動を中心に防災教室やスポーツ・文化活動などの体験や地域住民との交流、遊びの場や学習機会を提供する土曜チャレンジキッズ教室事業を実施した。</p> <p>なお、事業の実施については事業が安定的に実施できる地元のNP0法人に委託している。</p>
活動の成果	<p>子どもたちが心豊かで健やかに育つ環境づくりを推進するため、安全・安心な環境のもとで、地域の方々の参画を得て様々な交流・体験活動等に取り組むことができた。町のスポーツ推進委員による軽スポーツ教室やシニアクラブによる伝承遊び、消防署職員による防災教室、星座観察、マジック教室などを実施した。</p>
課題等	<p>開催回数や事業内容の検討を重ね、マンネリ化を解消することや、学校支援地域本部との連携等による新たな試みが必要である。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	

市町名	菊川市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	○
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



グループで英語学習に取り組む児童

活動名	きくがわ土曜英語学習『英語でおもてなし』
実施箇所名	菊川市中央公民館
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>小学生のうちから英語が得意になって、2020年の東京オリンピック観戦など、日本に来る外国人を英語でおもてなしできるような市民を育成することを目的に、市内小学校6年生を対象に取組を始めた。英語検定5級受検を目指し、9月～1月の土曜日に計10回の講座を受講している。</p> <p>講座では、学校の外国語活動では学ばない単語の読み取りや文法的な内容も学ぶことになるが、意欲を持って希望した児童が受講しているので、回を追うごとに力をつけていっている。</p> <p>始めた当初は全体講義で行う場面が多かったが、ボランティアが増えていったことで、内容によって役割分担をし、少人数グループでも行えるようになった。児童のニーズに合わせた指導や言葉かけができていく。座席やグループは、なるべく他校の児童と組むよう配慮し、市内児童の学びの場での交流機会にもなっている。</p>
活動の成果	<p>実施2年目から中学生に募集を広げている。中学生は英検受検ではなく英会話等の発展的な内容を実施しているが、部活動等がある中、約20人が希望し受講している。その内、半数以上が前年からの継続である。英語学習に対して前向きな思いが継続していることがわかり、意欲を育てることができていると捉えている。</p>
課題等	<p>ボランティアの出席予定を事前に確認してはいるが、土曜ということもあり、家庭の事情等でボランティアの急な欠席があった場合、進め方やグループ編成の調整変更をしなければならないことがあった。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加ボランティアは各回3人程度。児童は各回6年生約25人ずつ1日2回。</p>

市町名	牧之原市
-----	------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	○
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



田植えに挑戦する児童

活動名	自然農法栽培により人と人との繋がりをとおして健康を育む
実施箇所名	勝間田塾
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>小学校１～６年生までの全学年の親子２０組で、休耕田を利用した田植え、草とり、門松作り、餅つき、どんど焼きなど一連の活動を行った。</p> <p>地域の方々の指導やアドバイスのもと、田植えから稲刈りまでは約１００日間の活動を行った。米作りの体験は初めての人々がほとんどで、親子で一緒に活動は大変有意義で貴重な体験であった。</p> <p>特に化学肥料、農薬、除草剤等を使用せずＥＲ菌を混ぜ発酵させた肥料を使用した米作りや田植え開始時の稲刈り、餅つき時に豊作を祈る神事を行い、自然の恵みや多くの人との関わりに感謝する、大変内容の濃い活動であった。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの手で植えた稲には愛着が強く、休日に成長した様子を親子で見に来ている。 ・田植え時、素足で田に入り活動した。土の感触は楽しい体験となった。 ・稲の成長の記録（分株、穂の出方）を日を決めて観察し、それを自由研究にする等、子どもたちが意欲的になった。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・準備に時間がかかる。 ・野外活動のため、天候に左右される場合がある。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>ボランティアは各回８人程度 小学生の親子２０組</p>